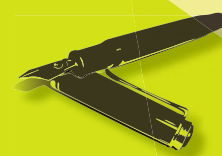




大学内の植物園

世界へ飛び出せ！ 明大生 ー協定校留学日記ー

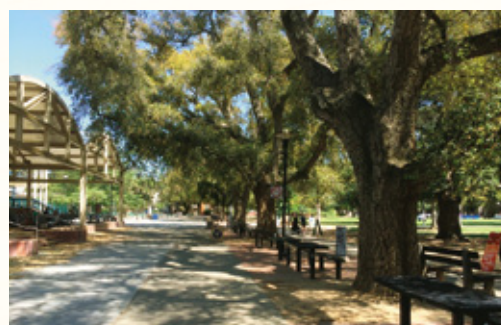
Vol.5 カリフォルニア大学デービス校
(アメリカ合衆国)



農学部4年
飯田 杜真

はじめ

私は2013年の9月から2014年の7月までの10か月間、アメリカ合衆国カリフォルニア州のカリフォルニア大学デービス校に留学しました。デービスはサンフランシスコから車で1時間半、州都であるサクラメントからは車で30分の場所に位置する学園都市で、町の真ん中に大学が位置し、その周りを商業施設や住宅などが取り巻いています。もともと農学



キャンパスのメイン広場

校だったこともあり、周りには大規模な畑が広がっていて、非常にのどかな雰囲気が漂っています。私は、日本では農学部農学科の環境デザイン研究室に所属しており、街区公園の設計や、造園について学んでいました。そうしているうちに、人間活動と自然環境との間の最良の均衡状態に興味を持つようになり、生態系を考慮したプランニングの分野が進んでいるカリフォルニアに留学したいという気持ちが強くなりました。そんな中、明治大学がカリフォルニア大学デービス校と協定を結んだこと、さらには、授業料負担型の留学形式が存在することを知り、留学を決めました。

大学生活

留学先では、空間設計実習やランドスケープアーキテクチャー、造園史、3Dモデル制作実習、サ

Profile

飯田 杜真
Toma Iida

農学部4年
環境デザイン研究室
生田柔道部、生田モーターサイクルフェデレーション (IMCF) 所属
1991年生まれ 東京都出身



春休みにHorseshoe Bendにて

ステイナブルデザイン、景観生態学に関する授業を履修することができました。実習系の授業は週に3回、3時間ずつ行います。コンセプトから形を作り上げて、2Dとして表現し、さらには、利用者が具体的にどのような空間を使うかということも考慮しながら、厚紙や粘土で3Dモデルを作っていました。これらの実習は非常に忙しく、毎週毎週、新たな課題を出され、翌週までには完成させなければならぬというハードなスケジュールでした。課題の難易度が上がるにつれ、週末に学校に來たり、徹夜で終わらせたりしないと間に合わないということもしばしば起きました。しかし、それ



春休みに、Antelope Canyonにて

を繰り返しているうちに、同じ実習を受けている仲間とも自然と仲良くなり、強いチームワークも生まれました。課題の最後には必ずプレゼンテーションをする場が設けられており、他の授業の教授や先輩方の前で、自分の作品を発表しました。母国語ではない英語での発表は非常に緊張しましたが、造園という分野でのプレゼンテーションの重要性を改めて認識することができました。

景観生態学の授業では毎週フィールドワークがあり、学校の周りに存在する固有の生態系の調査に出かけました。その中で、農用地開発のために土地が破壊されていく事実を知り、衝撃を受けたのを覚えています。土地開発において、開発がその土地の生態系に与える影響の事前評価を設計段階で入念に行うことの大変さとその重要性を痛感させられる授業でした。

私生活

留学開始当初は、ホームステイ

をしていたのですが、もっと現地の学生と交流したいという思いもあり、冬からシェアハウスへと移りました。シェアハウスの仲間は本当に多様で、フランス人、ドイツ人、コロンビアン人、アメリカ人、チリ人、オランダ人が住んでいました。全員デービス校に通っていたこともあり、頻繁に大学生生活について語り合いました。週に1回、交代制で、それぞれ自分の国の料理を振る舞うこともあり、非常に興味深い食べものを頂いたのを覚えています。

留学を終えて

デービスで学んだことは非常に多いのですが、一番痛感したのは、人とのプロフェッショナルなコミュニケーションという学問の特性上、課題を通して、色々なチームメイトと意

見を交換しながらプロジェクトを進めなければならぬ場面がいくつもあり、意見の対立から、仲が悪くなることが多々ありました。しかし、そうした状況下でも、お互いの意見をなるべく曲げずに、尊重し合いながら、折り合いをつけていくことの重要性と大変さを学ぶことができました。発言力が弱いために、ビジネス社会で先を越されがちな日本人特有の弱い部分を鍛えることができた気がします。今後はデービスで学んだことを踏まえて、将来的には日本のまちづくりや空間設計に携われればと考えています。